

<p>厚生労働行政推進調査事業費補助金（地域医療基盤開発推進 研究事業）研究計画書  （総括）研究報告書  医師の労働時間短縮のための手法に関する検討  研究代表者 馬場 秀夫  熊本大学大学院生命科学研究部・消化器外科学 教授</p>	
<p>研究要旨</p> <p>医師の労働時間の短縮のため、タスクシフティング/タスクシェアリングが可能な業務のうち、説明と同意の取得等において、定型化可能な業務を抽出し、時間短縮のための資料を作成する。</p>	
<p>馬場 秀夫  熊本大学大学院生命科学研究部・消化器外科学 教授</p> <p>A. 研究目的  医師の時間外労働の上限規制が適用される2024年4月に向け、「厚生労働省の「医師の働き方改革に関する検討会」がとりまとめた報告書において、医師の労働時間短縮のためには「医療従事者の合意形成のもとでの業務の移管や共同化（タスク・シフティング、タスク・シェアリング）」を徹底して取り組んでいく必要があるとされた。現行制度の下で実施可能な業務のうち特に推進するものとして、患者への説明と同意の取得、各種書類の下書き・仮作成、診察前の予診・問診、患者の誘導が挙げられている。  本研究においては、これらにおける定型的な対応が可能な業務を抽出し、当該事項についてのDVD等の資料の作成やその有効性の検証等を行い、各医療機関における実装を進めることで、医師の働き方改革に関わる一連の制度の円滑な運用に資することを目的とする。</p> <p>B. 研究方法  3年間を研究期間と計画し、1年目である2021年度はタスク・シフト/シェアの推進において、現行制度の下で実施可能な業務のうち特に推進するとされた業務のなかから、定型的業務の抽出を行った。  研究代表者の所属施設において同意書取得の件数について、各診療科および同意書の種類ごとに集計、分類した。また、その結果について研究班や所属学会（日本外科学会）等で共有し、次年度に作成予定の資料の内容について検討した  （倫理面への配慮）  本年においては、定型業務の抽出として既に匿名化され、かつ対応表のない情報のみを扱っており、倫理的な問題はないものと判断する。</p> <p>C. 研究結果  2020年4月～6月における熊本大学全体での同意書取得件数は27710件であった。診療科別の上位3診療科は消化器内科（3867件）、消化器外科（3559件）、循環器内科（1860件）であった。同意書の種類としては画像診断（造影CT、MRI、PET-CT）に関する同意書が6293件（23%）と最も多く、続いて輸血に関する同意書（2745件；10%）、手術に関する同意書（1653件；6%）、内視鏡に関する同意書（1535件；5%）、麻酔に関する同意書（1363件；5%）で、これらでおおよそ半数を占め</p>	<p>消化器外科のみでは画像診断1314件（37%）、輸血465件（13%）、麻酔192件（6%）、手術116件（3%）であった。</p> <p>D. 考察  診療科別においては手術や内視鏡、カテーテル検査等の侵襲的手技が多い診療科において同意書取得件数が多く、種類毎では全診療科で共通する画像診断（造影検査）が最も多く、続いて上述の侵襲的手技に関連する内容の同意書取得件数が多いものと考えられた。侵襲的手技については各手技によって内容が異なることから、画像診断、輸血、麻酔等の同意書について定型的な内容を資料化することで説明と同意の取得に関する時間の短縮が得られるものと考えた。</p> <p>E. 結論  取得件数の多い同意書のなかで定型的な内容について資料を作成することで汎用性の高い資料が作成できるものとする。今回の抽出結果を受けて、動画の作成等を行う。資料の作成にあたっては、関連団体及び医療機関の協力を得て、電子カルテ等院内システムの状況を問わない、汎用性の高い資料の作成を目標とする。</p> <p>F. 健康危険情報  特になし</p> <p>G. 研究発表  1. 論文発表  2. 学会発表  （発表誌名巻号・頁・発行年等も記入）</p> <p>H. 知的財産権の出願・登録状況  （予定を含む。）  1. 特許取得  特になし  2. 実用新案登録  特になし  3. その他  特になし</p>